

1年学年だよ！ 第15号



1学期学年目標決定！ & 2週間後には期末テスト！

全員登校がスタートしてから、もう16日が経ちました。やはり全員がそろそろと雰囲気ガラッと変わりますね。そんな中、昨日議員が「一学期 学年目標」について話し合いました。全員登校が始まってからのみなさんの様子(ふるまい・言動)について、議員の立場でいろいろな意見を出し合いました。みなさんも学校が始まった時とは、教室や学年全体の雰囲気が少しずつ、よくも悪くも変わってきていると感じているのではないのでしょうか。

そこで、議員たちが「ラスト約1か月の一学期をどのように過ごしていくべきか」を考えました。長時間議論した末に決まったのが…

「仲が良く 集中できる学年 ～ 協力・注意・尊重 ～」

です。「協力・注意・尊重」の3つのワードは、今年度48期のスローガンです。

「仲が良く」というワードには、小学校からのつながりでの「仲良く」ではなく、48期全員がクラスを越えて「仲良く」していこう意味がこめられています。

「集中できる」というワードについては… みなさんが登校して、色々なことにも慣れてきていることと思います。そこで最近気になっているのが、「チャイム着席」や「移動教室」のときの動きです。ろう下で楽しくお話をすることは良いのですが、時間を忘れてしまい、チャイムが鳴ってから移動するという様子をよく目にします。このワードには、時間や授業でメリハリをつけ、集中できる集団になっていこうという意味が込められています。

今自分ができていないことを、突然改善(かいぜん)することはとても難しいことです。「小さなことからコツコツと…」という言葉のとおり、少しずつ、自分ができるところから、学年・クラスのためによくしていきましょう。

また、2週間後の15日(水)～17(金)には期末テストがせまっています。昨日の1限目には「定期テストについて」担任の先生からお話があったと思います。初めてのテストで緊張していることでしょう。何事も初めてのことは緊張するものです。しかし、日が経つにつれ緊張はほぐれていきます。「慣れること」はいいことですが、それが「いいかげん」「てきとう」にならないように、気を引きしめていきましょう。「初心忘るべからず」です。

右のページに「テストの受け方」をのせておきますので、各自もう一度確認しておきましょう。

テストの受け方

<持ち物>

- ・ 筆記用具<鉛筆（HB・B）数本、あるいはシャーペン（0.5mm HB）・替え芯>
- ・ 消しゴム・直定規（2つ折りのものは禁止）・コンパスなど
- ・ 教科書・ノート・プリント類（休み時間に見る）

<注意事項>

- ・ 机の中は空にし、かばんは前か後ろの棚に置く。（中身が見えないようにかばんをしめる）
- ・ 机の上には鉛筆・消しゴム・直定規など必要なものを出す。（筆箱、替え芯などは出さない）
- ・ 予鈴で着席し、静かに待つ。
- ・ 答案はすべて鉛筆（シャープペンシル）書きとする。
- ・ テスト中（またはテスト前）、筆記用具、直定規、コンパスなどの貸し借りは一切禁止。
- ・ テスト中は、答案用紙に集中し、きょろきょろしたり、外を見たりしない。
- ・ 隣の人や前後の人と話をするなど、不正行為と疑われる態度をとらない。
- ・ 途中、トイレに行きたくなった人は、監督の先生に申し出る。
- ・ 筆記用具などが床に落ちた場合は、静かに手を上げ、監督の先生に知らせる。
- ・ 最後までできた人も、再度確認し、50分を最大限に使う。
- ・ 終わりのチャイムが鳴ったら鉛筆を机の上に置き、一番うしろの人だけが立ち、解答用紙を回収する。
- ・ 休み時間はなるべく教室の中で、次のテストの準備をする。
- ・ 下敷きは、事前に許可された者のみ使用できる。
- ・ 机の落書きは不正行為とみなされる。前日までに消しておく。
- ・ 机の中に問題用紙、筆記用具などを入れない。

解答用紙の書き方

- ・ エンピツはHB程度の濃さのものを使う。うすいものや読みにくいものは×にする場合がある。
- ・ 字は正しく、ていねいに、わかりやすく書く。
- ・ 問題用紙と解答用紙が別の時は、書くらんを間違えないようにする。
- ・ 間違えたときはきれいに消しゴムで跡が残らないように消して、新しい答えを書く。
- ・ 問題はあわてずじっくり読み、記号や番号で答えなさいという指示を守る。
- ・ できる問題からやり、難しい問題は後でじっくり考える。

解答用紙を返してもらう時の注意事項

- ・ テスト後最初の授業時に問題用紙・赤ペンを必ず持ってくる。
- ・ 点数だけを見てあとはどうでもよいのではなく、必ず間違いを訂正してしっかりと理解すること。
- ・ 問題用紙・解答用紙はテストファイルにまとめておく。
- ・ 結果がよくなかった人も、もうダメだとあきらめることなく、次はがんばろうと努力を続けること。